No.26 June 2017

Newsletter

発行：　公益社団法人 日本水環境学会 九州沖縄支部
URL : http://www.jswe-kyusyu.com/
事務局：〒 860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
熊本大学大学院先端科学研究部水圏環境分野
TEL: 096-342-3577
E-mail: goshi@kumamoto-u.ac.jp

目　次

1	巻頭言	熊本大学	川越　保徳
2	平成 29 年度九州沖縄支部事業計画	熊本大学	川越　保徳
3	第 51 回日本水環境学会年会報告	熊本大学	濱　武英
4	年会見学会報告	熊本県立大学	小林　淳
5	年会支部企画セッション報告	琉球大学	中野　拓治
6	平成 28 年度九州沖縄支部総会報告	熊本大学	濱　武英
7	平成 28 年度九州沖縄支部表彰報告	熊本大学	川越　保徳
8	MS 基礎講習会 in 九州活動報告	九州工業大学	前田　憲成
9	水環境総合指標研究補助事業報告	国立高専機構大分高専	高見　徹
10	平成 28 年度支部収支報告ならびに平成 29 年度支部収支（案）		
11	平成 29 年度水環境学会九州沖縄支部役員		

1. 巻頭言

（公社）日本水環境学会九州沖縄支部長
熊本大学　川越　保徳

平成 28 年度に引き続き、九州沖縄支部支部長を仰せつかっております熊本大学の川越（かわごし）です。本年も何卒宜しくお願いいたします。

まずは、今年 3 月 15 日～ 17 日に熊本大学黒髪キャンパスで開催されました第 51 回日本水環境学会年会について、支部会員皆様方から多大なるご支援とご協力を賜りましたこと、改めてここにお礼を申し上げます。

早いもので平成 28 年熊本地震から 1 年が過ぎてしまいました。熊本城や益城町などにはいまだ震災の爪痕が残っていますが、熊本市の繁華街には人が戻り、賑わいが見られるようになりました。年会開催にあたっては宿泊先や交通が懸念されましたが、幸い、参加された皆様に大きな不便をおかけすること無く、何とか無事に乗り切れたのではないかと思います。それもこれも全て、九州沖縄支部役員の皆様を含め、多くの方々のご支援の賜と存じます。今回、年会参加者数は 1,200 人を超え、懇親会も約 400 人の参加があり、盛況の内に年会を終えることができました。懇親会前に大きすぎると思ったホテルの大広間でしたが、開会時には人で埋め尽くされて狭く、でも嬉しく感じたことが印象深く記憶に残っております。

一方、昨年度は年会と重なり、かつ地震の影響もあって場所やマンパワーの調整が取れず、九州沖縄支部の発表会を実施することは断念いたしました。このため、支部研究発表会で行っていた優秀発表賞の表彰ができず、支部の皆様、特に学生会員の皆様にはご迷惑をおかけしたと思っております。誠に申し訳ございませんでした。ここに、謹んでお詫び申し上げます。なお、年会プログラムに「九州沖縄の水環境」に関するセッションを設け、九州や沖縄の水環境に関連する研究発表を抽出し、発表・ご議論いただきました。

H29 年度もすでに 2 か月が経過（執筆時点）しております。本年度は、落ち着いた（？）支部活動を考えておりましたが、現在、逆にのんびりし過ぎた感を抱いております。本年 3 月の支部総会においては、これまでのシリーズ講習会などの支部活動に加えて、新たな支部企画の検討と実施、若手研究者の横のつながりをサポートし、さらなる研究活動の活発化につながる様な取組を推進しましょうと言ったお話をさせていただきました。また、支部の運営についても、多忙を極められている役員全員で議題をお諮りして物事を進めていてはスピード感に欠け、支部活動活性化の支障にもなりかねません。そこで、若手を中心とする実行部隊のようなメンバーによる面白そうな、新しそうな、実のある、将来に繋がる‥といった活動を模索していければといった提案もさせていただきました。しかし、「言うは易し」で、今のところ、なかなか妙案が思いつかないというのが正直なところです。

ちょうど先週（6 月上旬）、学会本部から年会開催にかかる収支の報告と支部活動サポートのための予算等に関する連絡ありました。これらを踏まえ、今年度および将来的な支部活動の活性化に向け、本腰を入れて考えて行きたいと考えております。今後とも、九州沖縄支部活動への学会員皆様方のご理解、ご支援を重ねてお願い申します。

最後に、九州沖縄支部学会員皆様の今後のますますのご活躍とご清祥を祈念いたし、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

2. 平成 29 年度水環境学会九州沖縄支部事業計画

項　　目	実施時期	広報方法	広報時期	備　　考	担当者
平成 29 年度若手研究・実務者育成基金募集上半期	5	HP，メール，学会誌	4	対象者は 6 月に決定	川越
ニュ-ズレター発行	6	HP	6		石橋
水環境健全性評価調査	未定	HP，メール		募集	高見
シリーズ講習会または見学会開催	未定	HP，メール		未定	希望者
平成 29 年度若手研究・実務者育成基金募集下半期	11	HP，メール	8	対象者は 12 月に決定	川越
支部表彰 (学術賞・水環境貢献賞・学術奨励賞) 選定	12	HP，メール，学会誌	10	対象者は 2 月に決定	安井
平成 29 年度九州沖縄支部大会研究発表・総会	2	HP，メール，学会誌	11		
HP の更新	年間				前田

※なお，本事業計画で予定された実施時期等が変更となる場合もございます。その際は、支部 HP 等で皆様方にご案内申し上げる予定です。そのほか、ご質問ご意見等あれば，直接事務局にお問い合わせいただいても構いません。

3. 第 51 回日本水環境学会年会報告

熊本大学　濱　武英

第 51 回日本水環境学会年会が、2017 年 3 月 15 日（水）～ 17 日（金）の期間、熊本大学黒髪キャンパス（熊本市中央区）で開催されました。熊本年会は、九州沖縄支部で主な運営を行いました。九州沖縄支部長の川越保徳熊本大学教授を実行委員長とし、九州沖縄支部の正会員を中心に実行委員会を構成しました。

年会期間中の天候は、晴れが続いて過ごしやすいものでした。今回の年会では、昨年の第 50 回年会（徳島大会）から実施された開会式とテクニカルランチミーティングが引き継がれるとともに、新たな試みとして、本学会団体会員が就職活動を控える学生に向けて水環境分野の仕事を紹介する説明会が実施されました。一般講演（口頭発表）は、従来どおり、10 会場で大会期間の 3 日間を通して行われました。特に、今回は九州沖縄支部での年会開催ですので、2 日目の午前中に「九州沖縄の水環境」をテーマとするセッションを企画しました。2 日目の午後には熊本震災の復興と水環境」をテーマとして特別講演会を実施しました。また、見学会として、熊本の水源地や浄化センターなど「くまもとの水を巡る」ツアーを企画いたしました。

年会の参加者の総数は 1,327 名であり、くしくも 14 年前に熊本で開催された年会とほぼ同じ参加者数となりました。なお、年会の参加者数はここ数年 1,300 名前後で推移しており、熊本大会は例年並みといえます。

年会の懇親会は、熊本駅前のホテルニューオータニ熊本で開催しました。懇親会の参加人数は 422 名でした。来賓として，共催する熊本大学から松本泰道副学長にご挨拶をいただき，実行委員会顧問の古賀　実先生（水俣環境アカデミア所長）から乾杯のご挨拶をいただきました。また，　繊月酒造から米焼酎「川辺」を提供していただきました。

昨年 4 月に発生した熊本地震以降イベントや観光・宿泊のキャンセルが相次ぎ、熊本は一時的に元気を失いました。今，熊本が復興に向けて歩みを進める中、全国から皆様をお迎えして第 51 回日本水環境学会年会を開催できたことは、その大きな弾みになったと思います。最後に、今回の年会開催にあたり、熊本大学から共催をいただきました。また、熊本県と熊本市から後援をいただきました。熊本国際観光コンベンション協会からは学会開催の助成金、交通補助金ならびに伝統芸能補助金支給、のぼりや看板などの提供、懇親会場や宿泊施設の状況提供など多大なるご支援をいただきました。さらに、多くの企業に展示・広告をいただきました。ご支援いただきました皆様に深く感謝申しあげます。

4. 年会見学会報告

現地見学会「くまもとの水を巡る」開催報告

熊本県立大学　小林　淳

第51回日本水環境学会年会が平成29年3月15日(水)から17日（金）にかけて熊本大学で開催され、3月16日（木）に九州沖縄支部の現地見学会を兼ねて「くまもとの水を巡る」というテーマで現地見学会を実施しました。当日は青空が広がる穏やかな天気で、見学会には45名の皆様に参加いただきました。

予定通り13時に熊本大学を出発し、まずは土木の神様と称される加藤清正公によって慶長13年（1608年）頃に築造された「鼻ぐり井手」を訪れました。鼻ぐり井手では、菊陽町南部町民センターセンター長の松本様、菊陽町文化財ボランティアガイドの会会長の矢野様にご案内いただきました。鼻ぐり井手は現在も使われている農業用水路で、「鼻ぐり」は牛の鼻輪を通す穴、「井手」は人手で掘られた用水路のことをいいます。水路に、鼻ぐりのような穴をあけた独特の構造物が概ね一定間隔で配置されており、用水がこの構造物を通過する際に水中の土砂や火山灰を巻き上げ、水路の底にこれらが堆積しないように設計されています。当日は用水が流れておらず、幸いにも鼻ぐり井手の全容を見ることができ、その大きさや当時の工夫が作った階段の跡まで確認することができました（写真1）。築造当時の背景や工事の状況、工夫の労働基準など興味深いお話しを聞き、すっかり鼻ぐり井手を理解したつもりになりましたが、まだまだ解明されていない謎も残っているそうです。最後に鼻ぐり井手の前で記念撮影（写真2）をして、次の見学地に向かいました。

次に訪れたのは熊本市の健軍水源地です。健軍水源地は国内最大級の自噴井戸（日量15,000 m^3）があることで知られており、この水源地のみで熊本市の水道供給量の4分の1を賄っています。熊本市上下水道サービス公社の谷本様、塚本様にご案内いただき、はじめに熊本地域の地下水が豊富な理由（熊本市の水道水源は100%地下水）や地下水涵養の仕組みを解説していただきました（写真3）。そして、つぎに直径2mはあろうかという自噴井戸（5号井）を見学しました。大きな井戸の底から地下水が轟轟と勢いよく湧き出しており、熊本市の地下水の豊富さを実感して頂けたと思います（写真4）。その後、実際に地下水を飲ませていただき、湧きたての地下水の味を堪能することができました。

最後に熊本市東部浄化センターを訪問しました。同浄化センターには、熊本市・日本下水道事業団・株式会社タクマが平成24年度国土交通省下水道革新的技術実証事業により建設したアナモックスの実証プラントが設置されています。はじめに、株式会社タクマの高木様よりアナモックスの原理やこれまでに得られた研究成果をご紹介いただきました。その後、プラントに移動し、実際に亜硝酸化槽やアナモックス槽など各槽の内部をのぞきながら、それぞれの役割などを説明して頂きました（写真5、6）。見学中は質問が絶えず、参加者の皆様の関心の高さが窺えました。まだまだ見学を続けたいところでしたが、懇親会の開催時間が迫っていたため、後ろ髪を引かれる思いで、東部浄化センターを後にしました。その後、渋滞に巻き込まれながらも、予定通り18時に懇親会会場に到着し、無事に見学会を終えることができました。

最後になりましたが、見学会に参加頂いた皆様、見学会でお世話になった菊陽町南部町民センター、菊陽町文化財ボランティアガイドの会、熊本市上下水道サービス公社、株式会社タクマの皆様方に厚く御礼を申し上げます。

写真1　鼻ぐり井手

写真２　鼻ぐり井手の前で記念撮影

写真３　健軍水源地にて

写真４　健軍水源地の自噴井（5 号井）をのぞく

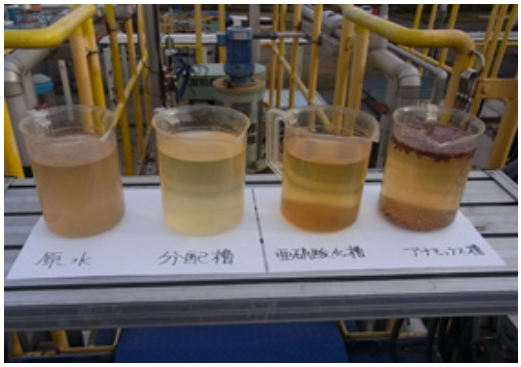

写真５　アナモックスプラント処理水の展示

写真６　アナモックス実証プラントの見学

5. 年会支部企画セッション会報告

琉球大学　中野　拓治

2016 年度の九州沖縄支部研究発表会は、第 51 回日本水環境学会年会の開催を踏まえ、第 51 年会の企画セッション「九州沖縄の水環境」として、年会 2 日目の 3 月 16 日（木）9:00 ～ 12:15 に熊本大学黒髪南キャンパス工学部 2 号館 221 教室において行われた。この企画セッションは、九州・沖縄支部会員に止まらず、全国の学会会員から広く発表課題の応募を募ったところ、12 編の口頭発表が「九州沖縄の水環境（1）」、「九州沖縄の水環境（2）」の 2 セッションで行われた。

（1）九州沖縄の水環境（1）

琉球大学の中野拓治教授を座長に 6 件の研究成果の口頭発表がなされた。

2-C-09-1 では、末永雄一（熊本大学大学院）らは「熊本地域の微地形内で異なる挙動を示す地下水水質変動特性と地下水流動」と題して、熊本地域の地下水位と水質変動の関係性を明らかにしている。地下水流動や水質に関わる地下地質構造について考察した結果から、地下水水質の変動要因は局所的な地下地質構造の違いによる可能性があると指摘している。

2-C-09-2 では、原口智和（佐賀大学農アグリセ）らによって「農業用ダム湖に発生したアオコのオゾン処理について」と題して、農業用ダム湖に発生したアオコを対象に現場実験を通じて、オゾンの殺藻作用を利用してアオコを削減するオゾン処理法の効果についての報告がなされた。噴射ノズルから離れた場所のオゾン濃度は、短時間でアオコを死滅、分解するほどの濃度ではなかったが、概ね良好なアオコ削減効果が得られたとしている。

2-C-09-3 では、西山正晃（宮崎大学大学院）らによって、「下水処理水が流入する小河川で再増殖する大腸菌の遺伝子解析」と題して、下水処理水が流入する河川を対象とした実態調査を通じて、分子生物学的手法による再増殖する大腸菌の起源について報告がなされた。有機物や栄養塩が豊富に存在する都市小河川の底質では、大腸菌が生残・蓄積し、再増殖する可能性があると指摘している。

2-C-09-4 では、横田恭平（大分工業高等専門学校）によって、「大分県長湯温泉が芹川ダム貯水池の水質に与える影響」と題して、長湯温泉が芹川ダム貯水池の水質に与える影響を明らかにすることを目的として調査した結果、芹川ダム貯水池は長湯温泉の影響を受けていると結論づけている。その影響は、希釈によって濃度が減少しているため、長湯温泉の影響をそのまま受けているのではなく、緩和されているものと推定できると考察している。

2-C-10-1 では、森澤尚平（大阪工業大学大学院）によって「大分県の渓流水における硝酸態窒素濃度とその分布に影響する要因の解析」と題して、大分県を対象として広域かつ高密度の調査を通じて ArcGIS を用いて、窒素濃度（NO_3-N）の地域的な分布の特徴を明らかにしている。大分県の渓流水中の NO_3-N 濃度は全体として低濃度であり、国東半島北東部の流域には 1mg/L 以上の地点がまとまって存在していることが明らかになったが、その原因については特定されなかったことから、今後、詳細な調査が必要であることを指摘している。

2-C-10-2 では、渡辺亮一（福岡大学工学部）らによって「有明海長洲町干潟におけるフルボ酸鉄シリカ資材を用いた干潟再生実証研究」と題して、熊本県玉名郡長洲町沿岸干潟でのヘドロ浄化に伴うアサリ等の二枚貝類への影響を把握するために、現地に資材を施工した箇所におけるコドラート調査の結果、急激に確認され始めたアサリの個体群は、フルボ酸鉄シリカ資材投入後に施工区内に着床した稚貝が成長したものであると指摘している。

（2）九州沖縄の水環境（2）

大分工業高等専門学校の高見徹准教授を座長に 6 件の研究成果の口頭発表がなされた。

2-C-10-4 では、駒井幸雄（大阪工業大学工学部）らは「屋久島全島に分布する河川における溶存ケイ

酸濃度の季節的･経年的な変動について」と題して、屋久島全体の河川における溶存ケイ酸濃度の空間的な分布と季節的・経年的な濃度変動について検討した結果、ケイ酸濃度には季節変化は特に認められず、出水の有無による影響が大きかったことを明らかにしている。上流に比べて下流においてケイ酸濃度が増加する傾向は同じであり、降水の流出過程での岩石との接触時間を反映しているものと考察している。

2-C-11-1 では、中野拓治（琉球大学農学部）らによって「鹿児島県与論島地下水の栄養塩水質環境と周辺海域物質輸送の再現への試み」と題して、与論島地下水の栄養塩（窒素・リン）環境の現状把握と周辺海域の潮流・栄養塩シミュレーションを試みた結果、地下水質は沿岸海域の生態系に大きな影響を与えていることが確認されたとしている。大きな河川がない与論島のような島嶼地域では、農業等の人為的活動による地下水への影響と地下水が流出する沿岸海域生態系への影響を包括的に考慮する視点が必要性についても報告している。

2-C-11-2 では、北尾亮太（京都大学大学院）らによって、「沖縄県内の河川におけるペルフルオロ化合物類とその前駆体の生物への蓄積量調査」と題して、沖縄県内の河川における水生生物中のペルフルオロ化合物類（PFCs）とその前駆体に係る蓄積量調査から、測定 15 種の PFCs および 14 種の前駆体の中で最も平均含有量が多かったのは N-EtFOSE であることを報告している。内臓には PFCAs と PFASs が他の部位には前駆体が多く含有していることから、内臓で前駆体が分解して PFCs が生成された可能性を指摘している。

2-C-11-3 では､田中周平（京都大学）らによって、「沖縄県比謝川のペルフルオロ化合物類汚染の現況と前駆体からの生成過程の検証」と題して、沖縄県比謝川流域の前駆体からの PFCs 生成過程を追跡した結果、大工廻川で PFOS 412 ng/L、PFHxS 164 ng/L、PFC-FPs 405 ng/L が検出されるとともに、長田川ポンプ場では 781 ng/L の PFCFPs、また、長田川上流にも異なる PFCs 汚染源が存在する可能性が示唆されたと報告している。地下水環境の PFC-FPs の挙動として、N-EtFOSE は地下水環境において 30 日間で主に PFOA、PFHpA の生成ポテンシャルに変わることを指摘している。

2-C-11-4 では､鮎川和泰（島根大学汽セ）らによって「沖縄地方島嶼の小規模貯水池における水質モニタリングの考察」と題して、沖縄県久米島に位置する山城池において、水温成層構造と水質特性の評価を行った結果、水温上昇と共に強固な成層を形成して底層は無酸素化しており、底層水にはカビ臭現象が発生する一方で、時折、酸素のある中層域でもカビ臭現象が確認されたことを報告している。中層に於いて貧酸素水が計測されており、その周期性は風による撹乱ではなく、日照時間が長く、表層が暖まった後冷却する過程で中層付近も混合するものと考察している。

2-C-12-1 では､古里栄一（埼玉大学理工）らによって「沖縄地方島嶼の小規模貯水池における水質モニタリングの考察―水温成層構造および水質特性に関する現地調査－」と題して、山城池における夏季現地調査の結果、水深が浅い水域であるにも関わらず、水温成層形成に伴って DO 濃度や ORP 値の鉛直分布に顕著な成層構造が存在していることが確認されたと報告している。カビ臭物質であるジオスミンは好気的な表層水からは検出されず、嫌気化した底層水に存在することが確認されたことから、カビ臭現象は近傍の旧儀間池と類似する機構によって生じているものと考察している。

以上、「九州沖縄の水環境（1)」及び「九州沖縄の水環境（2)」の 2 セッションは、56 名及び 55 名の参加者を得て盛況であり、いずれの発表においても活発な質疑・議論が交わされた。各研究の今後の更なる成果に期待したい。

6. 平成 28 年度九州沖縄支部総会報告

熊本大学　濱　武英

平成 29 年 3 月 14 日（火）熊本大学黒髪南キャンパスにて、九州沖縄支部総会を開催いたしました。今年度は熊本で日本水環境学会の年会が開催されたため、例年は同時開催している支部発表会は行われず、総会のみの開催となりました。

総会では、平成 28 年度の支部活動報告、会計報告、次年度役員案等について提案がなされ、すべて参加者の全会一致および議長委任により認められました。また、水環境貢献賞の表彰が執り行われました。

7. 平成 28 年度九州沖縄支部表彰報告

水環境貢献賞

「くまもとの水とみどりの保全にかかる啓発・助成と実践活動」

肥後の水とみどりの愛護基金　甲斐　隆博

今回の「水環境貢献賞」の受賞につきましては、「水環境の保全と創造に貢献する極めて顕著な活動と認める」との高い評価をいただき、心から感謝申し上げます。また、「第 51 回日本水環境学会年会 熊本大会 2017」九州沖縄支部会議におきまして、当財団の活動事例を発表する貴重な機会をいただきましたことに重ねて御礼申し上げます。

当財団の環境保全活動の主な内容は、「森林と棚田による地下水保全」と「ＤＶＤ『水はみんなの命』制作による啓発活動」です。

まず、森林ですが、平成 18 年、阿蘇北外輪に肥後銀行が購入した「阿蘇大観の森」52ha の運営を行っており、水源涵養林の保全育成事業（間伐、植樹や下草刈り等）に取組み、杉・ひのきの人工林の針広混交林化を進めています。

次に棚田ですが、平成 23 年、阿蘇市山田地区で 25 年間耕作放棄地（阿蘇市全体の耕作放棄地の約 8％相当）となっていた土地を当財団が賃借して整備し、「阿蘇水掛の棚田」として再生。水田による水源涵養を目的として、3.6 ｈａで田植え・稲刈りを実施しています。昨年の田植えは熊本地震直後で規模の縮小を余儀なくされましたが、毎回肥後銀行役職員や地元の協力者・子供達など 700 名程度がボランティアとして参加しています。

最後にＤＶＤ「水はみんなの命」の制作による啓発活動ですが、平成 24 年、多くの市民に熊本の水資源に関心を持ってもらい、その大切さを広め、後世まで守り伝えていくために、熊本特有の地下水のメカニズムとそれをとりまく環境を「見える化」した啓発ツールとして、熊本の水資源愛護啓発プログラム「水はみんなの命」を制作しました。熊本県下すべての小・中・高校にＤＶＤを配付し、市民講座やイベント等で上映しています。ＤＶＤのこれまでの延べ視聴者は約 13,800 名にのぼっています。内容が高度すぎるとして、別途小学校低学年向けに制作した「くまモンバージョン」のＤＶＤは、県下全ての小学校へ寄贈しました。

国際化に向けて「英語版」も制作し、平成 27 年 4 月に韓国の大邱市で開催された「世界水フォーラム」九州デーで上映したほか、平成 27 年 9 月のマレーシア・イスカンダル商工会議所会頭や平成 28 年 8 月の同国ジョホール州政府の地域開発担当大臣などの一行が来訪された際のプレゼンテーションで使用するなど、活用範囲を拡げています。

持続可能な地域社会のために環境保全活動を続けてまいりますので、今後も何卒よろしくお願いいたします。

8. MS 講習会 in 九州活動報告

九州工業大学　前田　憲成

主　催　公益社団法人日本水環境学会
共　催　国立大学法人九州工業大学、日本水環境学会九州沖縄支部
後　援　公益社団法人分析化学学会九州支部
期　日　2016 年 7 月 22 日（金）9:15 ～ 18:00
場　所　九州工業大学戸畑キャンパス・百周年中村記念館多目的ホール
（〒 804-0015 福岡県北九州市戸畑区仙水町 1 － 1　百周年中村記念館 2 階）

活動内容

本講習会は、日本水環境学会のイベントとして、2014 年と 2015 年に東京で開催されたマススペクトル（MS）分析の基礎を講習する会であるが、地理的な制約から参加できなかった会員等による要望から九州地区での開催を企画したものである。本講習会は、九州工業大学の共催、ならびに分析化学学会九州支部の後援で実施された。

本講習会には、日本水環境学会九州沖縄支部の 5 名の理事以外に、役所関係者、企業関係者、および大学関係者、合計 51 名の参加のもとで行われた。下記のプログラムのとおり、本講習会は、MS に関する研究に長けた 3 名の講師による基礎的な講習と 3 社からの固相抽出の基礎ならびに応用的な技術報告から構成され、それぞれの講演に対して、活発な質疑応答がなされた。また、講習会後は、協賛企業による技術展示も行われた。

当日のプログラム

09:15-09:20 開会挨拶と趣旨説明　（公益社団法人日本水環境学会九州沖縄支部　前田憲成）
09:20-10:10　環境分析のおける GC/MS の有用性　（北九州市立大学・教授　門上希和夫）
10:15-11:05　未経験者のための基礎質量分析　（鹿児島大学・准教授 高梨啓和）
11:10-12:00　　水道水質検査における MS の活用　（国立医薬品食品衛生研究所・室長　小林憲弘）
（昼食）
13:00-13:30 固相抽出の基礎 1　－逆相モード編－　（ジーエルサイエンス (株)）
13:30-14:00 固相抽出の基礎 2　－イオン交換モード編－（サーモフィッシャーサイエンティフィック (株)）
14:00-14:30 固相抽出の基礎 3　－ミックスモード編－　(日本ウォーターズ (株))
(休憩)
14:45-15:30 水質環境分析における前処理のポイントと効率化　(ジーエルサイエンス (株))
15:30-16:15 MS を用いた水質環境分析のための新たなアプローチ
（サーモフィッシャーサイエンティフィック (株))
16:15-17:00 Q-TOF を用いたターゲット、ノンターゲットスクリーニング手法について
　(日本ウォーターズ (株))
17:00-17:05　閉会挨拶　（公益社団法人日本水環境学会九州沖縄支部長　川越保徳）
17:05-18:00　　協賛企業展示　（同会場において自由質疑応答）

写真　前田准教授による開会挨拶の様子

写真　当日の会場の様子

写真　門上先生による講演の様子

写真　高梨先生による講演の様子

写真　小林先生による講演の様子

写真　企業展示設置の様子

写真　川越支部長による閉会挨拶の様子

写真　協賛企業展示の様子

9. 水環境総合指標研究補助事業報告

国立高専機構大分高専　高見　徹

水環境総合指標研究は、平成 24 年度から本支部の年間事業の一つとして実施されています。本事業は、平成 21 年度に環境省から「水辺のすこやかさ指標“みずしるべ”」が公表されたことを受けて、水環境の総合的な指標の研究レベルの向上や、普及、活用を目的として本学会に設置された「水環境の総合指標研究委員会」（平成 21 年 9 月発足、平成 24 年度終了）の活動成果を九州沖縄地区に展開することを目的としています。これまで、福岡県の遠賀川や大分県の大野川流域において、地域住民とともに「みずしるべ」による水環境の評価を行ってきました。

平成 28 年度は、前年度に続き大分高専の古川隼士助教が中心となって、大分川の派川である裏川において「みずしるべ」にもとづくアンケート調査を実施しました。調査は平成 28 年 5 月 22 日(日)に裏川流域で行われた清掃活動「津留地区河川クリーン活動」（主催：津留地区ふるさとづくり推進協議会）に合わせて行われ、同活動に参加した地域住民の 123 名からアンケートの回答を得ることができました。取り纏められた回答結果は、同年 6 月 26 日（日）に大分市津留地区公民館で開催された講演会「裏川の水ものがたり」で公表され、地域住民との間で調査結果の利用方法や、河川環境の保全・改善に関する意見交換を行うことができました。平成 29 年度は裏川流域における活動を継続するとともに、調査対象を広げて「みずしるべ」を実施する予定です。なお、平成 28 年度の事業の実施においては、一部、NPO 法人おおいた水フォーラムからの支援を受けました。ここに記して謝意を表します。

10. 平成 28 年度支部収支報告並びに平成 29 年度支部収支（案）

収支計画書（九州沖縄支部）
（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで）

1 一般会計
(1) 収入の部

（単位：円）

科　　目	H28 予 算 額 (a)	H28 決算額 (b)	差額 (b-a)	備　　考
講演会参加費収入	100,000	0	-100,000	年会のため，支部発表会は行わず。
本部より活動費収入	200,000	200,000	0	支部活動費
雑収益	0	14	14	受取利息
当期収入合計	300,000	200,014	-99,986	
前期繰越金	1,076,440	1,076,440	0	
収 入 合 計	1,376,440	1,276,454	-99,986	

(2) 支出の部

（単位：円）

科　　目	H28 予 算 額 (a)	H28 決算額 (b)	差額 (b-a)	備　　考
支部総会開催費	150,000	76,920	-73,080	
講演会開催費（支部発表会）	300,000	0	-300,000	年会のため，支部発表会は行わず。
見学会等開催費	30,000	0	-30,000	年会と共催。見学会「くまもとの水を巡る」
M S 基礎講習会 in 九州	0	30,000	30,000	H28.7.22 開催（北九州市）アルバイト代
水環境総合指標研究補助事業	30,000	0	-30,000	H28.5.22，6.26 実施（裏川）
若手研究・実務者育成基金	300,000	0	-300,000	
支部研究発表会優秀講演者表彰事業 「水環境貢献賞」表彰事業 「学術奨励賞」表彰事業 「学術賞」表彰事業	100,000	240	-99,760	
支部企画検討事業	200,000	0	-200,000	年会と共催。セッション「九州沖縄の水環境」
役員会等開催費	120,000	0	-120,000	
第 51 回 日本水環境学会年会 関連経費	0	224,431	224,431	年会実行委員旅費
支部 HP 関係費	70,000	65,080	-4,920	保守費用等
予備費	76,440	1,332	-75,108	事務用品等
当期支出合計	1,376,440	398,003	-978,437	

平成 29 年度水環境学会九州沖縄支部収支（案）

(1) 収入の部

科　　目	金額（円）	備　　考
事業参加費収入等	100,000	九州沖縄支部研究発表会等
本部より活動費収入	250,000	
支部還元金	2,708,342	
当期収入合計	3,058,342	
前期繰越金	878,451	H29.3.31 現在
収 入 合 計	3,936,793	

(2) 支出の部

科　　目	金額（円）	備　　考
支部総会開催費	150,000	役員旅費等
講演会開催費（支部発表会）	400,000	支部研究発表会要旨集代等
シリーズ講習会または見学会開催	30,000	行事未定
水環境総合指標研究補助事業	30,000	水環境健全性評価調査（2 回程度・行事未定）
若手研究・実務者育成基金	300,000	年 2 回募集
支部研究発表会優秀講演者表彰事業 「水環境貢献賞」 「学術奨励賞」 「学術賞」	100,000	過去実績反映
支部企画検討事業	200,000	冊子『九州・沖縄の水環境』の編集作業と印刷
役員会等開催費	120,000	役員会旅費等
支部 HP 関係費	70,000	保守費用等
活動予備費	2,536,793	
当期支出合計	3,936,793	

11. 平成 29 年度水環境学会九州沖縄支部役員

役　職	氏　名	所　属	職　名	担　当
支部長	川越 保徳	熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター	教　授	研究助成 (主)
副支部長	中野 拓治	琉球大学農学部地域農業工学科	教　授	研究助成 (副)
理　　事	有薗 幸司	熊本県立大学環境共生学部食健康科学科	教　授	
	石橋 融子	福岡県保健環境研究所	課　長	ﾆｭｰｽﾞ ﾚﾀｰ
	伊藤 紘晃	熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター	助　教	
	伊豫岡 宏樹	福岡大学工学部社会デザイン工学科	助　教	
	内田 雅也	国立高専機構有明高専創造工学科	講　師	
	鬼倉 徳雄	九州大学大学院農学研究院動物資源科学部門	助　教	
	久場 隆広	九州大学大学院工学研究院環境都市部門	教　授	
	鈴木 祥広	宮崎大学工学部社会環境システム工学科	教　授	
	高梨 啓和	鹿児島大学大学院理工学研究科化学生命・化学工学専攻	准教授	
	高見 徹	国立高専機構大分高専 都市・環境工学科	准教授	
	寺嶋 光春	北九州市立大学国際環境工学部エネルギー循環化学科	教　授	
	糠澤　桂	宮崎大学工学部社会環境システム工学科	助　教	（新）
	前田 憲成	九州工業大学大学院生命体工学研究科	准教授	九州沖縄支部 HP
	安井 英斉	北九州市立大学国際環境工学部エネルギー循環化学科	教　授	支部表彰
	山田 真義	国立高専機構鹿児島高専都市環境デザイン工学科	准教授	
	山西 博幸	佐賀大学低平地沿岸海域研究センター	教　授	研究助成 (副)
幹　事	濱 武英	熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター	准教授	研究助成 (副)
	常松 順子	福岡市環境局保健環境研究所	主任研究員	会計
監　事	椛田 聖孝	東海大学農学部	教　授	
	門上 希和	北九州市立大学国際環境工学部エネルギー循環化学科	教　授	
顧　問	宮城 俊彦	元沖縄県衛生環境研究所長		
	山﨑 惟義	福岡大学工学部社会デザイン工学科	教　授	
	西留 清	国立高専機構鹿児島高専都市環境デザイン工学科	教　授	

（公社）日本水環境学会九州沖縄支部ニューズレター　No.26

2017 年 8 月 16 日発行

編集者

福岡県保健環境研究所（担当：石橋）

〒 818-0135　福岡県太宰府市大字向佐野 39

TEL: 092(921)9948 FAX: 092(928)1203